

平成30年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



2019年5月30日
NPO法人北海道遺産協議会

平成30年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計16件500万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	螺湾ブキ	足寄町	NP0法人あしよ観光協会	螺湾ブキ自生地鑑賞圃場復旧活動	500,000
2	北限のブナ林	黒松内町	黒松内町ブナセンター	歌オブナ林天然記念物指定90周年事業	500,000
3	姥神大神宮渡御祭と江差追分	江差町	江差町・江差追分会	江差追分担い手育成事業～子ども達とともに江差追分の風を運ぶ・札幌コンサート～	500,000
4	天塩川	流域市町村	EzoCup2018実行委員会	EzoCup2018チェンソーアートマスターズコンペティション	450,000
5	函館西部地区の街並み	函館市	合同会社箱バル不動産	函館西部地区暮らしを見つける写真展	400,000
6	森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」	遠軽町	夢里塾(ムリジユク)	卒寿記念「雨宮21号」PR大作戦	300,000
7	サケの文化、石狩川	石狩市	一般社団法人石狩観光協会	まちの魅力を伝承する市民ガイドスキルアップ事業「フォローアップ研修」	300,000
8	北海道の馬文化	新ひだか町	ひだか馬力ネットワーク	日高の馬文化を子供たちへ～馬文化伝承プロジェクト～	250,000
9	石狩川	流域市町村	石狩川下覧権	北海道遺産石狩川の体験・PR活動	250,000
10	開拓使時代の溶融建築、小樽港と防波堤、ニッカウマスキー余市蒸溜所、ジンギスカン、北海道のラーメン など	札幌市と近郊	北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定機構	「夢大地北海道ガイドタクシーで巡る北海道遺産」PR活動	250,000
11	天塩川	流域市町村	天塩かわまちづくり協議会	北海道遺産「天塩川」と北海道命名の人「松浦武四郎」生誕200年メモリアル活動	250,000
12	ピアソン記念館	北見市	特定非営利活動法人ピアソン会	ピアソンブックレット第6号仮題「ピアソン夫妻日本巡りレポート」&ヴォーリス記念室の展示更新。「坂本龍馬・坂本直寛・ピアソン宣教師への系譜」コーナー	250,000
13	ニッカウマスキー余市蒸溜所	余市町	一般社団法人余市観光協会	「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」実施 プロジェクト	250,000
14	野付半島と打瀬舟	別海町	野付半島自然環境保全協会	野付半島野鳥観察舎のPR活動事業	200,000
15	福山(松前)城と寺町、五稜郭と箱館戦争の遺構	松前町	松前町観光客誘致推進事業実行委員会	外国人おもてなし研修会	200,000
16	石狩川	砂川市	オアシスパークからゆめまちづくり協議会	石狩川・砂川遊水地活用促進プロジェクト	150,000

1. 螺湾ブキ自生地鑑賞圃場復旧活動

- 実施主体：NPO法人あしよろ観光協会
- 実施団体URL：<http://www.ashoro-kanko.jp/>
(NPO法人あしよろ観光協会HP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 螺湾ブキ鑑賞圃場は平成28年の台風で甚大な被害を受けた。自生地のため自然状態での復旧を期待したが回復が見込めないことから復旧作業を実施した。
- 一段高い土地に新しい圃場を設定し、雑草が枯れる秋を待って起耕。地ならし及び圃場の縁の除草作業を行い、螺湾ブキの苗2,000本と採取した根茎の植え付けを行った。
- 圃場の看板も洪水によりなぎ倒されたことから、新たな看板の設置を行った。
- 螺湾ブキは、2m以上の草丈になるには苗から3年以上の月日が必要なことから、今後も除草や追肥を行い、北海道民が誇れる北海道遺産螺湾ブキの復旧に努める。



遺産の名称：
「螺湾ブキ」（足寄町）



足寄町の螺湾川に沿って自生する螺湾ブキは高さ2～3mに達する巨大なフキ。かつては高さ4mに及び、その下を馬に乗って通ることができたというが、なぜ大きくなるのかはいまだに謎が多い。自生ブキの他に、農産物として栽培ブキの生産を行っており、その味は繊細で、ミネラルが豊富で繊維質にも富む。地元では産学官が一体となった商品開発も進めており、足寄町オリジナルのブランドとして知名度を高めている。

2. 歌オブナ林天然記念物指定90周年事業

- 実施主体：黒松内町ブナセンター
- 実施団体URL：<http://www.host.or.jp/user/bunacent/>
(黒松内町ブナセンターHP)
- 助成額：500,000円

ー活動内容（概要）ー

●歌オブナ林天然記念物指定90周年の記念事業として下記の事業を行った

- ・キックオフイベント（5月26日、27日）
市民劇「北のヤシの木」ダイジェスト版上映、白井川ブナ林に設置したインターバル撮影カメラによるブナ北限のラインの映像上映、講演会、歌オブナ林散策
- ・歌オブナ林1ha長期モニタリング調査（10月4日、5日）
- ・秋のブナウォッチングツアー（10月27日、28日）
- ・えがこう未来のくろまつない（1月14日、3月16日、17日）
- ・情報パネル、情報ボード、歌オブナ林のライブカメラの設置



遺産の名称：
「北限のブナ林」
(黒松内町)



ブナは温帯を代表する樹種で、北海道では渡島半島だけに分布する。黒松内町はその北限で、太平洋側の長万部と日本海側の寿都を結ぶ黒松内低地帯が境界線。黒松内町では、自然の恵みを伝える自然学校の開設など、ブナ林が育む豊かな生物多様性を活かした取り組みが進められている。また、渡島の七飯町には幕末に在住したドイツ人ガルトナーの植林したブナ人工林が残る。

3. 江差追分担い手育成事業～子ども達とともに江差追分の風を運ぶ・札幌コンサート～

- 実施主体：江差町・江差追分会
- 実施団体URL：<http://esashi-oiwake.com/>
(江差追分会HP)
- 助成額：500,000円

一活動内容（概要）一

●1月19日に札幌芸術文化劇場hitaruで開催された「江差追分札幌コンサート江差追分少年合唱」の前日、同コンサートに出演する江差追分会少年会員が、江差追分をPRするミニコンサートをマルヤマクラス（札幌市）で行った。高校生をリーダーとした共同生活や全道各地から集まった少年会員との合同練習などで、子どもたちの江差追分への誇りの醸成と成長がみられた。

■「江差追分ミニライブ＆PR活動」

日にち：1月18日（金）

会場：マルヤマクラス

出演者：江差町少年会員13名、

第16回江差追分少年全国大会優勝者・東美羽音

■「江差追分札幌コンサート」

日にち：1月19日（土）

会場：札幌芸術文化劇場hitaru

出演者：全道江差追分会少年会員44名



遺産の名称：

「姥神大神宮渡御祭と江差追分」（江差町）



姥神大神宮渡御祭の起源はおよそ370年前にさかのぼる。その年のニシンの豊漁に感謝を含めて行われたお祭で、現在も毎年8月9日～11日にまちは祭り一色となる。江差追分は中山道の馬子唄ルーツに、北国の厳しい風土にもまれながら多くの先達に唄い継がれてきた。日本国内だけでなく、海外にも多くの愛好者を持つ。はるか遠い江差のニシン景気を今に伝える。



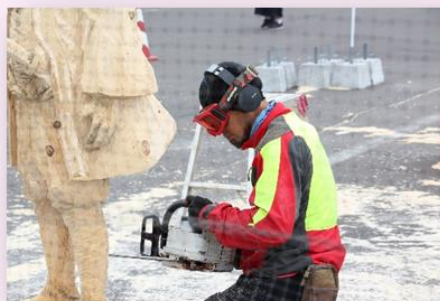
4. EzoCup2018チェーンソーアートマスターズコンペティション

- 実施主体：EzoCup2018実行委員会
- 実施団体URL：<http://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/>（下川町HP）
- 助成額：450,000円

一活動内容一

- 北海道唯一のチェーンソーアート大会を平成30年7月6日～8日の3日間にわたり開催した。今年の作品テーマは「北海道の野生動物たち」。3日間で来場者は1700名を超えた。
- 北海道の名付け親「松浦武四郎」像を天塩川流域産木材で制作。大会当日来場者にPRした。
- 「松浦武四郎」像は、11月1日～12月末まで北海道庁1階ロビーに展示、1月～2月は帯広市博物館で展示を行い、エゾカップおよび北海道命名150周年のPRを行った。

日	時	内容
7月6日	10:00～	1日目 参加受付
7月7日	10:00～	2日目 参加受付
7月8日	10:00～	3日目 参加受付



大会の開催は、下川町の中心部にある「下川町民会館」で行われ、会場には「北海道の野生動物たち」をテーマにした展示が行われ、来場者は1700名を超えた。

大会の開催は、下川町の中心部にある「下川町民会館」で行われ、会場には「北海道の野生動物たち」をテーマにした展示が行われ、来場者は1700名を超えた。



遺産の名称：
「天塩川」
（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ(アイヌ語で「梁」(やな)の意味)が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポイントから大河を下っていく。

5. 函館西部地区暮らしを見つける写真展

- 実施主体：合同会社箱バル不動産
- 実施団体URL：<https://hakobar.com/>（箱バル不動産HP）
- 助成額：400,000円

—活動内容—

- 東京より、約1ヵ月間西部地区に滞在し、写真を撮影したオオタニヒカル。「インターネット上のレビューで得られるような情報ではなく、自分だけの函館を見つけない。」と語っていた彼の成果展示として「暮らしの写真展」を開催した。
- 写真展は、2015年、函館移住計画を開催したときに借りた谷地頭の「路地暮らし」の家で開催した。

■オオタニヒカル写真展「そして、それから」

会場：函館市谷地頭町12-2長屋左側（市電「谷地頭駅」より徒歩3分）

開催期間：平成30年9月5日（水）～平成30年9月12日（水）



遺産の名称：

「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は1859（安政6）年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

6. 卒寿記念「雨宮21号」PR大作戦

- 実施主体：夢里塾（ムリジユク）（遠軽町）
- 実施団体URL：<http://engaru.jp/>（遠軽町HP）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 雨宮21号卒寿記念雪中特別運行の周知、歴史や文化的価値を伝え、ファンを育てることを目的に、イベントPR用ポスターとパンフレットの制作、当日の参加者用記念硬券切符を制作し、PRに役立てた。
- 東京ビッグサイトで開催された北海道ブロック記者発表（9/21・北海道観光振興機構主催）、ツアーリズムEXPOジャパン（9/20～23）、北海道旅行博（11/3～4・札幌グランドホテル開催）などでもPRを行った。
- 雪中記念運行当日は PR大作戦が功を奏し、全道・全国から鉄道ファンが来場した。実施後もSNSなどで多数の投稿があり、知名度向上が図られている。

- 雨宮21号卒寿記念雪中特別運行
日にち：12月8日（土）～9日（日）



遺産の名称：

「森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」」（遠軽町）



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。1928（昭和3）年、丸瀬布一武利意森林鉄道に配属され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが1958（昭和33）年に廃止。地元の強い要望で1976（昭和51）年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡され、町は“森林公園 いこいの森”を建設、機関車を走らせた。森林鉄道蒸気機関車の動態保存は全国で唯一のもの。

7. まちの魅力を伝承する市民ガイドスキルアップ事業「フォローアップ研修」

- 実施主体：一般社団法人石狩観光協会（石狩市）
- 実施団体URL：<http://www.ishikari-kankou.net/index.html>
（一般社団法人石狩観光協会）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

- 平成29年度に行ったガイド講習の受講者からの要望もあり、ステップアップ講座を実施した。
- 座学のみではなくガイド実演をもとに講師よりアドバイスをもらう実践的な講座を開催した。
- 今回の講座でもたらされた、ナレッジやチェックシートを活用することで、ガイド団体のスキルアップが図られ、更なる活躍へと繋がる仕組みづくりを進めていきたい。

■ 1日目（自然ガイドへの指導講座）

実施日：2018年10月15日(月)10:00～12:00 会場：石狩浜海浜植物保護センター

■ 2日目（歴史ガイドへの指導講座）

実施日：2018年11月7日(水)13:30～15:30 会場：石狩市弁天会館



遺産の名称：
「サケの文化、石狩川」
（石狩市）



サケは北海道を代表する食材。その歴史は古く、石狩市では、縄文時代の遺跡からサケを捕獲したと推定される仕掛けが発見されている。母川回帰は生命のドラマを生み、自然環境保護の目に見える指標でもある。サケ漁がさかんな標津町では、サケのことをもっと知ってもらおうと、2009（平成21）年に「標津町サケマイスター制度」を創設した。

8. 日高の馬文化を子供たちへ～馬文化伝承プロジェクト～

■ 実施主体：ひだか馬力ネットワーク

■ 実施団体URL：http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/（新ひだか町HP）

■ 助成額：250,000円

一活動内容一

1. 馬とのふれあい教室

地域内の保育所・幼稚園等の児童を対象に馬とふれあう機会を提供し、興味を持つきっかけを継続的につくる目的で実施した

■ 馬とのふれあい遠足

日にち：7月24日（火） 参加者：本桐保育所児童約40名

■ 出張ミニ動物園（出前教室）

日にち：9月19日（水） 参加者：東静内保育所児童約15名

2. ひだかうまキッズ探検隊ツアー

道外の馬好きな子どもたちを馬産地に招き、馬への興味や馬産地への愛着を醸成することを目的に実施した

日にち：8月7日（火）～10日（金）

参加者：道外で暮らす馬好きな小学生6名と保護者

3. 馬のお絵描きイベント

馬のイラストレーターおがわじゅり氏にレクチャーを受けながら、実物の馬を見ながら馬の絵を描いた。

日にち：9月2日（日） 参加者：約40名（うち子ども25名程度）



遺産の名称：

「北海道の馬文化（日高のサラブレッド）」（北海道各地）



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

9. 北海道遺産石狩川の体験・PR活動

■ 実施主体：石狩川下覧権

■ 助成額：250,000円

一活動内容一

●本会では、石狩川流域市町村が連携し、川に親しみながら、自然環境への理解を深めることを目的に、平成8年から、石狩川下覧権川下り・水遊びや河川の清掃活動、子ども七夕まつりなどの活動を実施している。

●今年度は、川下り実施日の数日前の大雨により川下りは実施できなかったが、河川会場付近の草刈り、大雨により溜まった土砂の撤去や、川下り参加者とスタッフのビブスの作成、砂川遊水地管理棟前での市民交流会を実施した。



遺産の名称：
「石狩川」
(流域市町村)



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

10.「夢大地北海道ガイドタクシーで巡る北海道遺産」PR活動

- 実施主体：北海道観光おもてなしタクシー乗務員認定機構
- 実施団体URL：<http://yumedaichi.visit-hokkaido.jp/>
(夢大地北海道ガイドタクシーのページ)

■ 助成額：250,000円

ー活動内容ー

1. 研修会開催

認定乗務員向けに北海道遺産を学ぶ研修を行い、北海道遺産をガイドするための知識向上を図った。実地研修3回、座学研修2回

2. 北海道遺産の旅マップ作成

札幌近郊の北海道遺産をタクシーで巡るモデルルートを提案するマップを増刷。PR事業で活用し、北海道遺産の普及と観光タクシーの利用促進を図った。

3. PR事業の実施

- ①10月5日～8日（北海道フェアin代々木 出展）
- ②10月21日～22日（北海道物産・観光祭り 出展）
- ③3月16日～17日（旅まつり名古屋2019 出展）
- ④FBキャンペーン（①～③にて実施）263いいね獲得
- ⑤北海道遺産の旅マップ配布



遺産の名称：

「開拓使時代の洋風建築」
(札幌市)



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をになった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

11. 北海道遺産「天塩川」と北海道命名の人「松浦武四郎」 生誕200年メモリアル活動

- 実施主体：天塩かわまちづくり協議会
- 実施団体URL：<http://www.teshiotown.hokkaido.jp/>
(天塩町HP)
- 助成額：250,000円

一活動内容一

●天塩川を探検して「天塩日誌」として遺し、北海道（北加伊道）を名付けた、松浦武四郎の生誕200年を機に、その舞台である天塩川を認知普及する活動を行った。

■天塩・昔の写真展

日にち：10月2日（火）～11月4日（日）

会場：てしお温泉夕映ロビー

■武四郎トークショー in 天塩

日時：10月13日（土） 18:00～19:30

会場：天塩町社会福祉会館ホール

ゲスト：河治和香さん（歴史小説家）

■天塩川・武四郎の足跡を巡る日帰りバスツアー

日にち：10月14日（日） 参加者：22名

見学場所：鏡沼公園（武四郎像）、天塩川河口、天塩川河川公園、六志内峠（アイヌの通路）、雄信内川河口、オンカンランマ、佐久橋、エゾマツ記念碑、音威子府「トンベツホ」命名の地、恩根内の石碑、アートビレッジ恩根内「武四郎コーナー」、びふか温泉、詩碑、テッシ、チョウザメ館、ビヤシリ大橋、名寄川沿い、道の駅びふか



遺産の名称：
「天塩川」
(流域市町村)



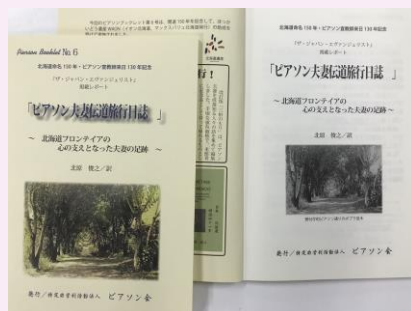
天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができ、日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

12.ピアソンブックレット第6号仮題「ピアソン夫妻日本巡りレポート」& ヴォーリス記念室の 展示更新。「坂本龍馬・坂本直寛・ピアソン宣教師への系譜」コーナー

- 実施主体：特定非営利活動法人ピアソン会（北見市）
- 実施団体URL：<http://www.npo-pierson.org/>（ピアソン会HP）
- 助成額：250,000円

一活動内容一

1. 坂本直寛の叔父坂本龍馬と、北海道開拓期に開拓者の心の支えとなったピアソン夫妻の系譜がわかるコーナーの設置。
2. 北海道命名150年を振り返り、ピアソン夫妻が歩いた道内の旅行日誌などを翻訳し本として出版した。
3. ピアソン邸の設計者「ヴォーリス記念室」の展示パネル等が退色してきていることと、設置から15年が経過して、ピアソンとのいろいろな関係が判明したので、年譜等を修正した。また、古くなった照明器具の更新を行った。



遺産の名称：
「ピアソン記念館」
(北見市)



アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1914（大正3）年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娼運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW. M. ヴォーリス。

13. 「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」実施 プロジェクト

- 実施主体：一般社団法人余市観光協会
- 実施団体URL：<http://yoichi-kankoukyoukai.com/>
(余市観光協会HP)
- 助成額：250,000円

ー活動内容ー

- 冬期閑散期対策の一環として今年で4年目の開催となる「ニッカ蒸溜所冬のナイトツアー」を12月15日、1月12日、1月19日、1月26日、2月2日の計5回にわたり開催。
- ナイトツアー当日は当観光協会スタッフ及び町民ボランティアでJR余市駅前からニッカ蒸溜所までをワインボトル約150本とキャンドルを使用しライトアップ。また、工場敷地内のツアーコースもキャンドルとニッカウヰスキーボトル、LEDライトを使用した手作りシェードランプでライトアップし特別感を演出。
- ツアー参加者の96%に「大変満足」、「満足」の高評価をいただき、町民ボランティア参加者数も年々増加しており、観光事業に対する意識向上の表れを感じている。
- JR余市駅前のライトアップ【余市イルミネーション～琥珀色の夢～】はウイスキーの色を意識したメープルゴールドのLEDを使用し、11月23日～2月17日まで毎日点灯、JR余市駅を降り立つお客様の撮影スポットとなった。



遺産の名称：
「ニッカウヰスキー余市
蒸溜所」（余市町）



理想のウイスキーづくりをもとめた竹鶴政孝は、澄んだ空気と夏でもあまり気温の上らない気候に加え、余市川の良質な水にも恵まれた余市町をその適地として選んだ。ニッカウヰスキー余市蒸溜所は昭和11年、ポットスチルに火が点じられてモルトウイスキーの製造が開始されて以来、当時と変わらない製法でウイスキーの蒸溜、貯蔵を行っている。

14. 野付半島野鳥観察舎のPR活動事業

■ 実施主体：野付半島自然環境保全協会

■ 助成額：200,000円

ー活動内容ー

● 2016年2月より、野付半島の野鳥観察観光事業の活性化を目指して、野付半島竜神崎灯台付近の湿地（通称：淡水池）に野付半島野鳥観察舎が別海町によって設置された。それに伴う、野付半島野鳥観察舎（野鳥観察ハイド）のPR活動事業を行った。

■ 野鳥観察舎PRリーフレット作成

野付半島野鳥観察舎（野鳥観察ハイド）PRリーフレット1000部を作成。
道内外の自然関係施設と近隣の公立小中学校に配布し、野付半島ネイチャーセンターで来館者案内用にも活用している。

■ 野鳥観察舎付近での水棲生物観察会

日にち：8月5日（日）

場所：野付半島観察舎前の淡水池（通称）

講師：深津恵太氏（植物研究家：釧路市在住）

参加者：12名



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
（別海町）



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

15. 外国人おもてなし研修会

- 実施主体：松前町観光客誘致推進事業実行委員会（松前町）
- 実施団体URL：<http://www.town.matsumae.hokkaido.jp/top.html>
（松前町HP）
- 助成額：200,000円

－活動内容－

●インバウンド対策として、北海道遺産に選定されている「福山（松前）城と寺町」周辺での道案内や観光施設窓口でのコミュニケーション向上に向けて、北海道遺産の魅力を伝え、旅行を楽しんでもらうことを目的に、観光事業者を対象にした、通訳機の活用研修を主とした、外国人おもてなし研修会を開催した。独自にテキスト（会話集）とリスニングCDの教材を作成し研修会を行った。



遺産の名称：
「福山（松前）城と寺町」
（松前町）



江戸時代の日本で最後に築城された城郭で、箱館戦争では旧幕府軍と官軍の戦場となった。城の北側には道内唯一の近世的な寺町があり、龍雲院、法源寺、法幢寺など5つの寺や松前藩主松前家墓所が現存している。また、城と寺町の一带は北海道でもっとも早く見ごろとなる桜の名所でもある。松前町の歴史を知ることは開拓以前の北海道の歴史を理解する上で重要。

16. 石狩川・砂川遊水地利活用促進プロジェクト

- 実施主体：オアシスパークからゆめまちづくり協議会
- 実施団体URL：<http://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/index.html>
(砂川市HP)
- 助成額：150,000円

ー活動内容ー

●石狩川と砂川遊水地の利活用を図るため、次の事業を実施した

1. 管理棟利活用促進の社会実験としての管理棟夜間開放
8月の花火大会の観賞場所として管理棟を開放。賑わいづくりとして、飲食販売・子どもへの花火配布を行った
2. 冬の遊水地利活用「ワカサギ釣り大会」開催
遊水地周辺で1～2月にワカサギ釣りが楽しめることを周知する機会として開催した
3. 多目的キャンプ場設置のための実地調査
6月に予定したモニターキャンプは雨天中止となったが、実地調査や研究協議を継続的に行った
4. 利活用に関するルールづくりの検討



遺産の名称：
「石狩川」
(流域市町村)



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。